

◆疑心暗鬼の相互関係を修復して!

つきあい始めてからそろそろ2年になる青年がいる。青年は精神障害があるという。高齢になった母親の手には負えないと云うことで、私がその母親と青年の間にはいる、青年の言葉に耳を耳を傾けながらいつの間にか月日が経ってしまった。

間もなく40歳になるその青年は、経済観念がなく、今のままで一人で社会生活を送っていくことは到底できないであろうことは周囲の関係者の誰もが納得しているのだが、日常の生活を見ていると**健常者の目には「怠け者」**としか受け止められかねない状況にあることは、あいだに立つ私にとってもとても悲しく辛いことでもある。

なぜならば、毎日、多量の精神治療薬を服用しているため、倦怠感によりまったく集中力はなく、本を読むことさえままならない状況である。だから企業に入って機械に囲まれて働くことなど到底不可能なことなのであって、私もあえてそのことを口にしないようにし、いつかその日が来ることを精神科医の判断にまかせるしかないと考えている。

一緒にいるときに注意深く見ていると、街を歩いても、車の助手席に乗っていても、動きの早いものに驚き目を閉じる。バイクの大きな音やヘリコプターのエンジン音やパトカーのサイレン音に怯えて、遠い過去の何かがフラッシュバックしてくるようで、大きな身体なのに肩をすぼめ縮こまってしまう。そのことは、自分でも辛いらしく**薬物依存症**がなせる結果なのではないかと、多量の治療薬の服用が気になっている。

時々、厳しく叱責する私とのやりとりがあったりすると私を排除することを画策したりもするが、叱責した私の本意が理解できてくれると、実に可愛そうなぐらいに素直に自分の気持ちを吐露してくれる。

親族や私に対して疑心暗鬼になっている青年の気持ちを平常心に取り戻すには、相互の交流を一定の関係を維持しながら修復していく意外には見あたらぬように思うのです。

◆こんな私に誰がした???

少年時代から精神科医の診療を受けていた青年は、問題を起こすと入院という処置によって精神を修復してきたと語ってくれた。入院治療によって、果たして自分の病気が良くなったのかどうかは自分では判断できないことを大きな課題として悩み続けているようだ。

「問題を起こすと精神科の病院で入院加療……」というトラウマの中で、親族や周囲の人々の言動や視線に怯え、しばらくはじっとしているのだがそれに耐えきれなくなると再び爆発する精神状態に、自分自身が疲れ切っているようでもある。

「僕はもう用のない人間なのかなあ～? どうしたらいいのか分からなくなっちゃっ…どうしたらいい? 教えて!!」と、号泣しながら訴えてくる。

「焦らなくていいんだよ…。1ヶ月が1日だと思っていればいいんだから…。20年間で今の君があるんだから1年2年で治そうなんて思わなくていいんだから…」と応えつつも、ぶつ



リスク・カウンセラー奮闘記・54

けどころがない青年の心の中の葛藤をどこまで受け止めてあげられているのかが、私自身にとっても大きな試練となって覆い被さってきます。

「今のままでいるのが嫌なんだ…。僕だって本当は働きたいんだ…。分かってくれるよね…。娘が成人になればいつかは結婚するだろうし、そうしたら俺なんか邪魔になるし…△×○×◇?×○」と云って、再び声を詰まらせる。青年と会って顔を合わせるとしばしばこんな会話になってしまいます。

会わないときは辛くなるかと電話をかけてきます。10分の時もあれば30分、50分と、とりとめのない会話になります。「先生元気ですか?先生、この間は嘘を言ってゴメンネ。(お酒を飲んでしまったこと)何でも話していいんだよ。一人にしないでよね。辞めないでよね…」と、何かがあったのかと私が心配になるほど気を引くようなことを言い続けるのは一体何なんだろう?

◆お墓参りで見えてきたこと

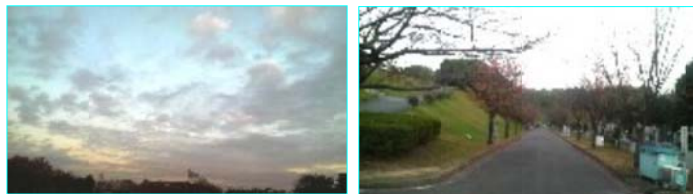
ある日、青年の家に行ったときのことだ。玄関の扉をたたくと部屋の中から待ってましたとばかりの勢いで慌てて扉を開けてくれた。小さな子供がまわりつくかのようにされながら部屋に入ると、たたまれた濡れ雑巾と線香の香りがして、どうやら仏壇を掃除していたらしい。私も…と、仏壇の線香をあげさせてもらい合掌して「開経偈」を…。

「ねえ、お墓まで何分ぐらいで行かれる?」「30分ぐらいかな～」「よし、今からお墓に行こう!」そう云って青年の方を見ると目を丸くしていたが、彼もすぐにお線香とライターの準備の支度をしはじめた。そろそろ夕暮れ間近の墓地に着く。カーテンを閉めかけていた入口の花屋に立ち寄り、青年の案内で墓地に向かう。そこは公園墓地で深まりゆく秋風で枯れ葉が舞っていた。

墓前に献花する青年。そして線香に火を付けるという煙がスーッと青年の身体にまわりつくようにして夕空に消えていく。そして2人が献香を終えると私の携帯電話が鳴った。誰だろう…。発信者を見て驚いた。青年の母親からの電話だった。

なぜ?こんなにタイミングよくお墓の前にいるときに…。偶然にも…。不思議なことがあるものだ。電話を青年にあずけ母親と会話しているあいだに「開経偈」「方便品」「寿命品」…「宝塔偈」と、いつものように読経させていただく。私はゴテゴテの信仰者ではないが、いつも日蓮宗の携帯経本を持ち歩いているのでいい具合でした。同じ日蓮宗でも青年の家は少し違うようだったのですがどこかで通じたのかも??

この時ばかりはこの青年も「先祖に守られている」という実感を持ったようで、暗くなりかけた道を歩く青年の姿は背筋が伸びて頼もしくさえ見えた。



NEW! R.F.C+M Report

リスク・ファイナンシャル・カウンセリング+マネジメント レポート ===== 2008年11月号

●明治生まれのワンマン社長の誕生

超一流と云われる企業の役員だった。十分すぎるほどの退職金をもらっていたこともあって、退職後は悠々自適の生活を送るつもりだったが、軍隊時代の友人に請われて、中堅企業の社長を引き受けた。全く違う業種であったが、友人が、しっかりした参謀を付けてくれたこともあって、何の問題もなく6年間の勤めを果たすことができた。

「ワシでもまだまだ現役としてやっていけるようだ…」と、新たな事業を始めることとなった。まだまだ66歳。妻にも娘と息子に対しても結婚当初から絶対君主だった。妻も夫のそれを良しとして子供たちにもそのように躰をして成長してきた。

「ワシが初代の社長となって70歳になったら娘が社長になりなさい。そして8年が経ったら長男が社長になりなさい。」と云うように、全てを父親が仕切って新たな商社としての事業がスタートした。

高齢になっていた社長は、娘を営業責任者とし、息子を工務の責任者として、金融機関との接触以外は社内で指揮を執るだけだったが、それでも世の中がバブル景気のまっただ中だったので業績も順調に拡大していった。

商品在庫の仕入資金、本社屋の建て替え、営業所の開設など社長なりに考えるところがあったようでも、会社の方向性を家族に説明するわけでもなく、娘や息子達が何を言ってもそれに耳を傾けようとしなかった。ご多分に漏れず、この会社にもバブル崩壊の影響が見え始めてきた。

●ワシはもう辞める、社長は子供の番だ

「まだまだ、今なら何とかなる…。ワシが云ったようにやればいいんだ…」と繰り返すばかりで、やがて、社長が古希を迎える日がやってきた。

「予てから云ってあるように、これからはあなたが社長としてやりなさい」と娘にそのことを告げ、自分はサッサと隠居をすると宣言してしまったのです。

「なんで…?景気が悪くなっているのだから、もう止めたらいいいじゃない…」と家族が猛反対すると…「出て行け!」とばかりワンマン風が吹き荒れる。



ちな花し散もえしたた万め届堅出樂ま二の な：な飽き
止つをか歩つるての花葉るくい来しで千形椿表なたきるよ
また楽か道きな好ではの冬頃蕾め咲種なは現んがるこく
り気しるのまんきしど時をにが夏るきもと花にて植ことよ
…分みと生せてなよん代彩新での花続あ日の脱古たがな見
…でな、けん現人う種かる花き終でけり本色脱帽人椿ないて
歩が一垣が代にね類ら花が冬わすて、産やで人椿ないて
いらつので想の咲で開のり。い秋だ形ですのだい椿いて
て歌一前公はい椿花いすき便頃種るかけ。すかのので
は人つに園思をにだてがはりか子のらで艶 てらは花も
立にのさのい伝託つい、じがらがで春も葉 き：あ、飽

悲慘な形の「債務保証相関図」にみる 子供を道連れにしたワンマンな親の罪

リスクのクヌリ

父親が云ってきたときには、すでに会社代表者の名前も娘の名前に登記変更されていて、あれよあれよという間もなく、娘が代表を引き受けざるを得ない状況になっていた。

そんな事ってあるの?と思うほどのことが、全て父親の手によって進んでいたのには大変驚きでしたが、家族はそれでも父親を信じて頑張っていくことになった。

ワンマン社長の退職金も全て使い果たすのには、それほど時間がかかりません。社長を娘にしたとはいえ、実権はワンマン親父(もう社長ではないので…)が握り、会社の実印も社長がしっかり握っていて話しません。

金融機関から更に借入をしなければならないとワンマン親父が言い出した。自分が連帯保証人にならなければいけないと分かっていたから、自分が代表である今、借り入れすることを反対していた。

銀行や父親とそんなやりとりをしていて初めて明らかになった事があり、娘はこの会社を整理して、家を出る決意をしたと云うことだ。

娘が止めるというキッカケは、2年以上前の父親が社長時代に借りた借入金に対し、娘と息子がそれぞれ連帯保証人になっていたということが、銀行から知らされたことだった。

●悲慘な債務相関図が語るもの

娘はすぐに家を出ました。それでもワンマン親父は、淡々としたもので今度は息子を社長に据えることにしました。もう、息子も居直りだ。借金を返済するかいづれ破産をすることになるのか、会社の業績が、神風が吹き一気にV字回復でもしない限り、選択肢は2つしかないものと覚悟を決めていた。

今ではV字回復どころか売上が下がる一方で、返済が滞ってからすでに1年が経過し、金融機関から債権回収会社に売却された債権として催告書が何度か送達されていました。とうとう「競売開始決定」の通知書が裁判所から送られてきた。

ワンマン親父の気まぐれが、【債務相関図】の中に、妻、娘、息子を連帯保証人という形で引き込んでしまったことは、何とも世の中を知らない身勝手な行動なのだろうかと思うと残念でならない。誠に残念なことだが、社会は『法の無知は許さず』ということだった。

ちよつと歳時記

あしひきの八峰(やつを)の椿 見とも飽かめや 植多てける君 (大伴家持)

◇発行者 株式会社ホロニクス総研
◇責任者 代表取締役・リスクカウンセラー 細野 孟 士
◇連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-12
TEL. 03-5684-0021 FAX. 03-5684-0031
<http://www.holonics.gr.jp>
【ホロニクス】
(英: Holonic) 全体(ホロス)と個(オン)の合成語。
すなわち組織と個人が有機的に結びつき全体も個人も生かすような形態を言う。
生物は個々の組織が自主的に活動すると同時に独自の機能を発揮する一方でそう
した個が調和して全体を構成する (小学館「カタカナ語の事典」より)

●目先で動く選挙民が多い？

最近の報道によれば、全国民に1万2千円以上の金(クーポン)を、政府がくれるそうだ。称して「定額給付金」と呼ぶそう。総理が、追加経済対策として決めている。

しかしこれを、経済対策だと信じている識者一人もいないようだ。

理由は簡単。景気浮揚にはつながらないからという。

では実際は何対策かという、選挙の「集票対策」という意見が圧倒的に多い。

「しかし、たかが数万円もらって、票の行方を決める人間っているのかねえ」それがどっさりいるんだ。結構多いんだ。

票というのは、大臣や知事の一票も、茶髪のアンチャンの一票も、風俗で稼ぐ姉やんの一票も、見事に価値にかわりはないのだ。

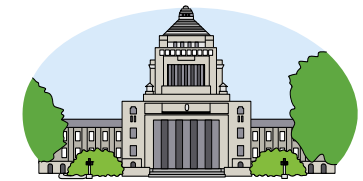
こういう人たちの中にも、しっかりした政治感覚を持つ人もいるが、多くは、「おれには関係ねえ」という考えの持ち主のようだ。

こういう人たちは、★テレビに出る人はすごい人、★時の話題になった人は特別な人、★メディアで取り上げられる人は有能な人、★ネットで有名な人は突出脳の持ち主・・・というように、対世間向けに露出度の多い人を見て、自分の行動を決める人が多いようだ。

人間は中身じゃない。元どここの事務次官だった、とかいう肩書き指向や、さもなくば、テレビでよく見かける人だ、というような外見指向派が、とてもとても多いのが実態だ。

メディアにしても、「朝バナナで痩せるんだって」という単純報道に飛びつき、「酢大豆にダイエット効果があるんだって」と、懲りずに飛びつき、ものの1、2週間で、つぎの露出報道に飛び移るといふ人たちが、人間の中身より外見にとられる人が多いようだ。

だから、こういう人たちの票を取り込むには、「金を握らせるのが、とっさり早い！」という計算が票を欲しい側に働いた、という意見を語り、周りの共感を得ていたTV番組もあった。



●"日本人は幼児化した"と嘆く識者

「小泉さんと握手した！」と、まるで有名俳優の手を握ったように、興奮して語った人は、全国に多いが、こういう有権者心理の向こうには、「よくも、こんな変な女に投票したもんだ」とか、「風変わりなことを口にするこんな男に、なぜ一票を投じたんだ」という結果が生まれ、政治をネジ曲げた投票集団と化した例は多い。

総理がホテルのバーを利用し過ぎる、と批判したメディアも野党も多いが、「帝王学」も勉強せず、マキアベリの「君主論」も参考にせず批判した幼稚さに、むかし「政治放談」で、「最近の新聞記者は、幼稚になったねえ」と批判した細川隆元氏の言葉を思い出した。

ところが最近では、「日本人の幼児化は、留まることを知らない」と、曾野綾子さんが批判したものだ。(産経新聞、11月3日)

「総理がホテルのバーで飲むのは、庶民感覚とずれていると書いた記者など、大人の言うことではない」。

帝王学も君主論も読まない、大人とは思えないことを言うものようだ。

いまさらとは思いますが、参政権とは政治に参加する権利のことである。

この権利を正しく行使している人は、一体何%いるのだろうか。

自分が何を基準にして投票したかは問わず、一方的に政治を批判するのは、参政権の行使が狂っていたからではないのか。そういう自己批判を、国民もしなければならぬまい。

身近な政治にはマンション管理もあるが、管理に無関心で総会にさえ、意義を理解し意見を述べる人は、とても少ない。そういう人の多くは第一に、投票にさえ行こうとはしない。

このへんで、政治を変える第一当事者は我々だ、と考える国民が増えなければならぬまい。

「人間は中身より外見が第一だ！」と、考える国民が多い国の政治は、やはり歪んだものになるのではないのか。

だから有権者にも、人間学を学ぶ人が増えなければならないのではなからうか。

「人間は中身じゃなくて外見だ」という国民が増えた国の政治
経営コンサルタント 二見道夫

よるが言、きて静に話解十、
ようよっ9ます。本かになし決叔数
うに直て2す。堂にっんてして母年間
し頑接い才。ををのっをいてた多た
頑接間1たは現役
ご指無常手人段で頑張
導すののの生を救うと
くだで、の生活とて
さい。にとぞ末永れ業
よるが言、きて静に話解十、
ようよっ9ます。本かになし決叔数
うに直て2す。堂にっんてして母年間
し頑接い才。ををのっをいてた多た
頑接間1たは現役
ご指無常手人段で頑張
導すののの生を救うと
くだで、の生活とて
さい。にとぞ末永れ業

ありがとうの思い出-10

が言、きて静に話解十、
ようよっ9ます。本かになし決叔数
うに直て2す。堂にっんてして母年間
し頑接い才。ををのっをいてた多た
頑接間1たは現役
ご指無常手人段で頑張
導すののの生を救うと
くだで、の生活とて
さい。にとぞ末永れ業

平昭妙、
成元和龍寺の
六年三十九、
年六叔母が
に母が、
に親族と
に母が、
に母が、
に母が、
に母が、
に母が、
に母が、

不借地権の承諾料の支払い

不動産コーディネーター 豊田泰幸

都内でも借地権による土地利用が数多く存在しています。お寺の周辺ではお寺さんが地主であり、都心からは離れた地域ではかつて農地だったところの相続人が地主であつたりしています。

一般的に、旧法による借地権では、「堅固な建物」と「非堅固な建物」とによって大きく分けられ地主の権利である「底地権」と借地人の権利とされる「借地権」の割合は、税務署による路線価図によって定められています。

また、契約期間は「堅固な建物」...では30年間「非堅固な建物」では20年とされているのが一般的のようです。

地代は商業地や都心か郊外かなどのによる地域によっても異なるようです。それぞれの地域における慣習にな

らう部分もあるようです。さて、借地権における各種の承諾料ですが、計算の基本になるのは「更地価格」です。計算の仕方としては…「更地価格」x契約地積x料率=となります。

■更新承諾料は...5%程度とされています。非堅固な建物で契約;期間が長い場合や高度利用が可能な土地であつたり、収益物件である場合は7%と増額となる場合もあります。

■増改築承諾料は...3%程度とされています。全面改築である場合、収益物件である場合、借地の残存期間が短い場合、延べ床面積が大きく増える場合、一時金の授受が無い場合、その土地の

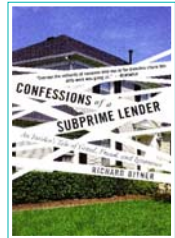
活用度が大きく向上する場合によって増額となります。特に、堅固な建物に建て替える場合は借地条件変更になりますので、10%が一般的です。

■借地権譲渡承諾料は...10%程度とされています。この譲渡承諾料についてはほとんど全国的に浸透しているようです。

◆借地権は建物の朽廃や消失によって、借地権が消滅します。また、増改築を承諾することによって地主の利益が減少するという考え方によってそれを補填するために承諾料が授受され、更に不足賃料の補填のためであるとも言われていますので相互の理解が大切だと言えましょう。

「貸し主」と「借り主」との信頼関係が著しく損なわれることなども、「土地借地権契約」の解約:事由に記載されているくらいですから、未永く賃貸借契約を継続していくうえで、マイナス要因とならないように、それなりの良い関係を維持してはかががでしょう。

World Now =サブプライムプロセスはどこに潜んでいたのか=



現在の米国金融危機を誘発したサブプライムローンがどういうローンなのか、実際のところよくわからないとおっしゃる方も多くはないでしょうか。

今回ご紹介する本「Confessions of a Subprime Lender: An Insider's Tale of Greed, Fraud, and Ignorance」の著者、リチャード・ビットナーは、パートナーと組んで、サブプライムローンを扱う金融会社を経営していました。この著者がサブプライムの仕組みを図を使って説明しています。サブプライムが大きな問題となった原因は数多くあると思いますが、ここでは二点に絞って考えてみたいと思います。

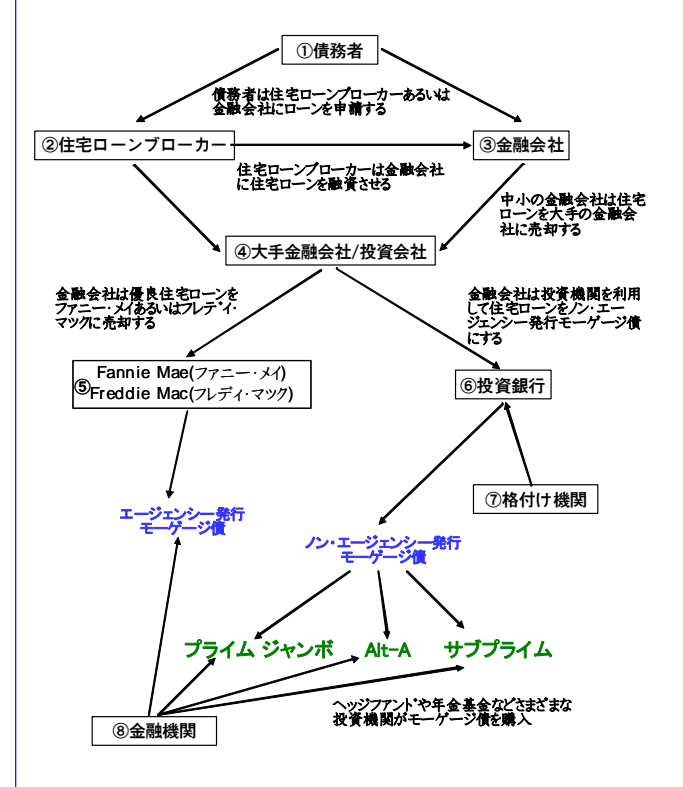
まず最初の問題は、②の住宅ローンブローカーです。住宅ローンを最初に融資する金融会社の代理窓口のような存在です。金融会社で登録手続きをし、その証明書を掲げた場所であれば、どこでも仕事ができるので、金融会社の直接の監督下になく、責任も不明瞭な部分があります。つまり、ローン申込者に十分な説明をしていなかったり、書類管理が杜撰であっても、業務が成り立ちます。

また、個人あるいはそれに近い人たちで運営しているので、制裁があつたとしても、負う負担は小さいため、利益優先で強引に契約を成立させることが可能でした。

事実、債務者の信用面における問題を隠して契約を成立させたり、必要な書類さえ管理できないブローカーがいたことを著者は説明しています。

そのようなブローカーから持ち込まれた住宅ローンも金融会社で融資されます。そして、自社資金の範囲でまかなえなくなると、金融会社は住宅ローンをまとめて、大手金融会社、投資会社に売り渡します。

二点目の問題は、住宅ローンの証券化です。④の企業は、⑤にあるファニー・メイやフレディ・マックなどアメリカ政府支援の住宅投資機関に住宅ローンを売却します。⑤の機関では、基準がもうけられていて、条件を満たした住宅ローンだけが、エージェンシー発行モーゲージ債になります。一方、信用面で劣つたり、金額が大きいものは、⑥にある投資銀行によって、ノン・エージェンシー発行モーゲージ債になります。このとき、格付け機関によって、分類され、そのひとつがサブプライムになります。信用面で優れているプライムのサブ(下)になるのです。ちなみに、ジャ



ンボというのは、⑤の金額上限を超えているものです。Alt-Aは、プライムの条件を若干満たさないものの、サブプライムより信用度が高いものです。しかし、最初の段階で正しく評価されていない契約がまとまって格付けされている状態で、どれだけの精度を期待できるのでしょうか。また、証券化されたことにより、問題の波及範囲が不明確になったことは、事態を收拾するために話し合うメンバーを特定できない状態を引き起こしてしまいました。このようにして影響範囲が限定できないことによって、心理面で悪影響を及ぼし、今回の金融危機のようにいつどのように収束するのか先の見えない状態まで発展してしまつたわけです。危機の対応も必要ですが、再発防止の取り組みも忘れてほしくないものです。